



The Star in the West

東京西ワイズメンズクラブ会報

THE SERVICE CLUB FOR THE YMCA

THEY'S MEN'S CLUB OF TOKYO-NISHI(03)3202-0342

c/o TOKYO YMCA YAMATE CENTER.2-18-12 NISHIWASEDA, SHINJUKU-KU, TOKYO 169-0051, JAPAN

国際会長主題
アジア会長主題
東日本区理事主題
あずさ部部長主題
東京西クラブ会長主題

“Let Us Walk in the Light-Together” 「ともに、光の中を歩もう」
“Respect Y's Movement” 「ワイズ運動を尊重しよう」
「広げよう ワイズの仲間」
「継続は力なり・一歩でも前に・そしてあがこう」
「休まず たのしく 元気よく」

2018年4月号
NO 500

それから、トマスに言われた。「あなたの指をここに当てて、わたしの手を見なさい。
また、あなたの手を伸ばして、わたしのわき腹に入れなさい。
信じない者ではなく、信じる者になりなさい。」

ヨハネによる福音書20章27節

ブリテン 500 号に寄せて

元日本区理事 加藤利榮（横浜とつか）

ブリテン 500 号おめでとうございませう。

今、私の机の上には、A4 版・35 ページからなる 1 冊の小冊子が載っています。冊子のテーマは、『印刷媒体としてのクラブ・ブリテンの編集手引き』。そして表紙には、「2005 年 6 月 20 日 東京西ワイズメンズクラブ」と 7 項目からなる目次、その裏面には吉田明弘さんの「まえがき」。そして冊子の終わりまで、1 行の隙もなくページが埋められています。「この手引き」の出た 2005 年は、東京西クラブにとってはチャーター後 30 年ほど経っています。ブリテンでは 350 号あたりかなと思われまふ。この話をあるワイズメンにしたところ、ぜひ見せて…ということで直ぐにお貸しし、先ごろ戻されてきました。

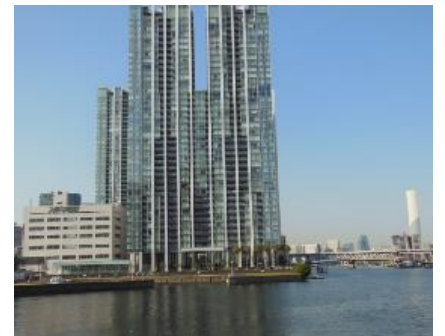
何年かにわたってブリテンを担当しているブリテン・エディタ

ーにとって、「この手引き」に書かれていることは至極もつともなことばかり、だけでなく、一々納得のいく内容になっています。特に、「校正一校正ミスという名の悪魔」で始まる一節は、「たかがブリテン、されどブリテン」、正に一見の価値あり、ここを読まれたワイズの皆さんは、「校正、恐るべし」と心から思われたことと思ひます。

今や PC 全盛の時代、ブリテンとして例外でなく、まず、いかにすればワイズの皆さんがドットコムを開いてくれるかが焦点になります。自身のクラブ・ブリテンについて、今一度初心に帰り、「この手引き」をもう一度開き、チェックしてみるのも無駄ではないな…と感じた次第です。

貴クラブの一層のご活躍と、600 号に向けての益々の充実・ご発展を心より祈っております。

目黒川下流、天王洲まで WHOウォーキングのご案内



目黒川を五反田大橋から河口の潮風の心地よい新都市空間、天王洲まで歩き、途中、日本ペイント明治記念館、荏原神社、旧東海道品川宿、東品川公園、崩れ台場などを訪れます。

期 日：4 月 28 日（土）

集 合：JR 山手線・五反田駅

中央改札西口前 9：45

解 散：東京モノレール天王洲アイル駅 14：30

参加費：300 円（交通費・施設入場料は自己負担＜今回はなし＞）

初参加の方は+200 円

クラブ役員

会 長 本川 悦子
副 会 長 石井 元子
書 記 篠原 文恵
会 計 村野 絢子
担当主事 宮崎 純

3 月 の 記 録		ニ コ ニ コ	0 円
在 籍 者 数 16人 (内 功 労 会 員) 1人	メ ネ ッ ト 0人	クラブファン	2,500 円
出 席 者 数 11人	コ メ ッ ト 0人	ファン	残高 150,441 円
メ ー キ ャ ッ プ 2人	ビ ジ タ ー 16人	ホ テ 校 ファン	12,300 円
出 席 率 87%	ゲ ス ト 1人	ホ テ 校 残 高	86,372 円
前 月 修 正 -	出 席 者 合 計 28人	WHO 参加者	35人

4月例会のご案内

今月の強調テーマ： LT

どなたにも忘れがたい映画がおありでしょう。題名を聞いただけで、ストーリーやシーンだけでなく、観たころの自分、映画館、一緒に見た人など、懐かしい思い出がよみがえってきます。

今月は、映画評論家・青木勝彦さんをお招きして、映像を観ながら、懐かしい名画の時代的背景や、見どころを解説していただきます。

ぜひ、あなたの心に残る映画を胸にあたためて、ご来会ください。

日時：4月19日(木) 18:45~21:00

会場：「ウエルファーム杉並」4F 集会室

(杉並区天沼 3-19-16 TEL/03-5335-7330)

JR・丸ノ内線荻窪駅北口から徒歩8分

会費：1,500円(ゲスト・ビジター・メネット)

担当：A班(高嶋、竹内、鳥越、吉田)

HAPPY BIRTHDAY

15日 鳥越 成代

受付 鳥越 成代
司会 高嶋美知子

開会点鐘 会長 本川 悦子
ワイズソング 一同
聖書朗読・感謝 吉田 明弘
挨拶・ゲスト&ビジター紹介 会長
会食
卓話者紹介 吉田 明弘

卓話 『映画に魅せられて—私の追憶の名画—』
映画評論家 青木 勝彦さん

ハッピーバースデー 会長
諸報告 会長 他
YMCA 報告 担当主事・宮崎 純
ニコニコ献金 一同
閉会点鐘 会長

— 3月第2例会(事務会) —

日時：3月22日(火)

19:00~21:00

場所：山手センター 2F

出席者：石井、大野、神谷、篠原、
高嶋、鳥越、村野、本川、吉田
<報告事項>

①3月のデータを確認した。

②3月次会計報告を承認した。

③京都ウェストクラブから、4月
14・15日開催の「たけのこ掘り
de BBQ」とペンタゴン交流会の案内があった。

④4月28日開催の富士五湖クラブ
「フライングディスク大会」
に大野、神谷さんが出席する。

<協議事項>

①4月第2例会

日時：4月26日(木)

19:00~21:00

場所：ウエルファーム杉並

②5月例会：

日時：5月17日(木)

18:45~21:00

場所：ウエルファーム杉並

卓話：未定

③次年度のクラブ役員のうち、会

計担当が河原崎和美さんに変更、了承された。

④長期休会者について、クラブメンバーがご自宅を訪問して体調などをお聞きする。

⑤クラブ紹介のパンフレット作りは、自分たちのペースで検討することにした。

⑥地域に密着したクラブ活動を進める上で、地域ボランティアセンターとのかかわりを考えようとの意見があった。

(書記・篠原文恵)

卓話者紹介

青木 勝彦(あおき・かつひこ)さん

1942年群馬県生まれ、育ちは東京。慶応義塾大学卒業、映画評論家。

株式会社日立製作所入社。情報事業関連会社の役員として経理部門管掌。現在はコンサルタントとして社外監査役等もされている。シネマディクト所属。学生時代から映画が趣味で雑誌などに執筆。映画検定1級資格を持ち、昨年、著書を出版された。

4月から例会会場を変更

4月から例会会場が荻窪駅北口に変わります。杉並区の施設です

← ウエルファーム杉並

電話：03-5335-7330

JR 荻窪駅北口から青梅街道を渡り、東京衛生病院方面に歩いた日大二高通りの荻窪税務署隣り。荻窪駅から徒歩8分、関東バス(荻06・07系統)荻窪税務署下車1分





(写真左) 東京世田谷クラブとの合同例会であいさつする本川会長 (右) WHO 3月、見沼代用水東縁を歩く



— 3月合同例会報告 —

久しぶりの山手センターで持たれた東京世田谷クラブとの合同例会にはゲストとビジター7人を加え28人メンバーが集った。

今回の卓話は「知られざる昆虫の世界」と題し、副題に「ゴミムシを通して見えるもの」とあった。吉田明弘さんが同窓生の集まりで偶然出会われた森田誠司さんを卓話者にお迎えした。

先生は「ゴミムシ？」との反応にうなずき、ある先生との出会いから、他の人が関心を向けないところに興味を持たれ、本業の歯科医師のかたわら100種を超える新種を学会に発表されている。原色甲虫図鑑(保育社)の著書も出されている。

スライドで詳しく説明下さったが、住む環境により固体の大きさにも様々あり、足の長さ・形・毛深いもの、全く眼の退化したものなどあり、採取した場所は北岳山頂・利根川取手近く・白馬近くの温泉地・紀伊半島等で、川底の石の下・木の先端・落ち葉の下等で、風や川の氾濫、海流によって運ばれると考えられる。

新種の名前にも南アルプスで見つけた虫に、69歳で亡くなった母上の「ヒサコ」を記念として命名し、1か月の奥日光新婚旅行中の新種には奥様のお名前から「エイコアイ」と命名。特徴から「ヒョウタンゴミムシ」「メクラチビゴミムシ」もある。

標本が回ったが、カナブンに似

た緑色の光ったものから、1ミリの黒い点にしか見えないものがあり、「捕まえ方は?」「これをどう解剖するのですか?」「逃げていきませんか?」の問いには、「吸虫管で採ります」「プレパラート上に水1滴で固定し、顕微鏡で見ながら解剖します」とのことでした。興味の尽きないお話でした。

まだ3人しかいないこの研究の後継者を募集中であること、誰か応募しませんか?

(村野絢子)

出席者: <メンバー>石井・大野・神谷・河原崎・篠原・高嶋・鳥越・本川・村野・山田・吉田(東京西)、朝倉・岩崎・太田・小川・小原・川嶋・佐藤・張替・峰・村野(東京世田谷)、<ビジター>長谷川(東京八王子)、浅羽(東京山手)、櫻井(東京むかで)、小原・藤江(東京たんぼぼ)、田上(熊本むさし)、<ゲスト>森田誠司(卓話者)、<MU>神崎・宮崎(YMCA業務)

桜絢爛、見沼たんぼ — 3月WHO報告 —

3月のWHOウォーキングは、埼玉・見沼たんぼのサクラの満開を見込んで、通常の第4土曜日を1週ずらして31日に行いました。

参加者35人が、JR武蔵野線・東浦和駅を出発。

見どころは、①江戸時代の開拓によって生まれた広大な「見沼たんぼ」。②灌漑用水の芝川、見沼代用水東縁と西縁を横につなぐ

通船堀とその水位差を解消する閘門、③なんといつても、川に沿って豪華に咲き誇るサクラ、それに押し合うように木々、草々に咲く花でした。

通船堀を管理した鈴木家で当時の1/2サイズのひらた船、園芸植物園で珍しい花を見、農場を横切り、大地を踏むこともできました。ワイズ関係の参加者は、石井・本川・吉田(東京西)、中澤・服部・藤江(東京たんぼぼ)でした。(吉田明弘)

地雷廃絶、東北支援 東京八王子Cのコンサート

東京八王子クラブの社会貢献活動・CS活動として毎年継続して行われている第20回チャリティーコンサートが3月18日(土)、北野市民センターで開催された。

5人編成のジャズバンド「Swing Swing Swing!!」の演奏であった。懐かしい曲、私にとっては聴き新しい曲等約20曲を軽快にまたファンキーに聴かせていただいた。聴衆は会場ほぼ満席であった。ワイズの人たちは多くなく、一般の方が多数来会されたことは喜ばしいことである。

地雷廃絶キャンペーン(JCBL)支援、東日本大震災支援のために、20年も継続して開催にはさまざまな苦労があったと思うが、それを克服し、実施は素晴らしい働きである。微力ながらこの活動に参加できることをよしと考えている。(神谷幸男)

ホテル校私費留学生のサポート日記

東京西クラブは、2009年10月からYMCAホテル学校の推薦を受けて選ばれた海外留学生2人に年間各5万円の奨学支援金を贈っています。

私が担当になって、まず最初にしたことは、募金箱を作ることでした。高嶋美和子さんがわが家に届けてくれた小箱を皆さんからの寄付が集まるよう願いを込めてリボンを飾りトールペイントでデコレーションしました。

奨学支援金の授与式は毎年6月に行われます。2016年、私たちのクラブは40周年を迎えましたが、7月16日には記念式典が中野サンプラザで行われ、その折に贈呈式も行いましたが、支援を受けて、立派に社会人になった方々も集まってお話をしてくださいました。皆さん、生き生きと明るい笑顔がとても印象的でした。

今年の3月には、東京世田谷クラブとの合同例会があり、席上で12,300円のご協力をいただくことができました。現在、ファンドは86,372円になりました。あと2か月で目標の10万円にして、今年の6月例会で将来有望な若者にお渡ししたいと思っています。

9年の年月を経て、箱もリニューアルし、若者が巣立つよう大きな花を描きました。これからも海外から学びにきている留学生のためにお役に立てることをしていきたいと思っています。

(河原崎和美)

東山荘の次期役員研修会

3月3日・4日、御殿場・東山荘において東日本区の次期役員研修会が行われました。

昨年はクラブ役員全員が参加しましたが、今年は会長の私1人の参加となりました。

研修会は開会点鐘で始まり、栗

本治郎東日本区理事の挨拶、他役員の挨拶、紹介がありました。

研修Ⅰでは区、国際の現況が語られました。研修Ⅱでは区の次期役員がそれぞれの事業方針を述べられました。

夜は懇親会の後、各部に分かれ飲み会？ではなく部長方針を理解し、各クラブの活動方針を聴き、役員同士の懇親を深めました。

2日目はそれぞれの役割等について話がありました。

次にITを活用して(Facebook等)情報を発信するために活用組、非活用組に分かれて研修を受けました。活気がある研修会でした。

(会長・本川悦子)

神田川船の会とともに 東京グリーン、45年

東京グリーンクラブの45周年記念例会が3月21日、東上野のオーラムで行われました。

同クラブは、東京YMCA中央ブランズの3番目のクラブとして1973年に国際加盟、東京YMCA英語学校OBと下町にYMCA活動を展開させたい思いを持つメンバーが中心のクラブで、モダンさと下町の粋と意気を持つクラブでした。

1979年に地域奉仕活動として「神田川船の会」を始め、時代に合わせながらクラブの軸となる事業に育て上げました。

記念例会では、記念講演を江戸東京博物館の名誉研究員・小澤弘さんによる『城郭都市江戸の水辺の風景』とし、アトラクションで、江戸芸『かつぼれ』(櫻川后姫社中)をたっぷり観せるなど、「らしさ」を十分に示しました。

一方、例会の中で2人女性会員の入会式を行い、45周年は、通過地点であるとの心意気を見せました。参加者は、約150人。

当クラブから、大野、神谷、吉田が参加しました。外は午前中から冷たい雨、ここには熱気がありました。(吉田明弘)

中高生のサッカーとともに 富士クラブ、30周年

富士クラブの30周年記念祝会が、春穏やかな3月24日、富士市ロゼホールで開かれました。

同クラブは、1988年の京都国際大会で加盟認証状を受けました。ワイズ経験のあるメンバーは1人もいませんでした。

中高生のサッカーに力を入れ、2002年から全国から女子高校生チームが参加する3日間のサッカー大会を主催し、一時は、1,000人を超える宿泊を受け入れたそうです。事情で9回で中止になりましたが、1994年に始めた富士市と近隣の中学校のサッカー大会は、今年も32チームが参加して行ったそうです。

記念会第1部の記念講演では、東海サッカー協会会長・高田稔さんが『サッカーこそ我が師』と題して講演され、130人ほどの中学サッカー選手が共に聴きました。

第2部では、小長井義正・富士市長と、森重男・熱海YMCA理事長の祝辞がありました。

第3部は、富士山が窓一杯に望める会場に移り、鏡開きなど、賑やかな懇親会でした。

富士クラブメンバーの挨拶の中には、「熱海YMCAや富士山YMCAグローバルエコビレッジへのかかわりを見据えよう」「中学生サッカー大会を、富士山部のクラブのある市にも働きかけたい」など、意欲的な発言がありました。富士クラブらしさのある30周年記念例会でした。参加者は約130人、当クラブから吉田が参加しました。(吉田明弘)

富士五湖クラブ 15周年

富士五湖クラブが、創立15周年記念祝会を5月12日(土)13:00から富士吉田市・魚吉会館で行います。会費は5,000円です。

当日、午前には、同会場においてあずさ部「富士の国」評議会が行われます。

☆☆ インタビュー ☆☆ 大村貴之さんに聴く

* * *

大村貴之さん(沼津)は、6月開催の東日本区大会の実行委員長として、奮闘中です。(吉田明弘)



—区大会の準備は大変でしょう。

「覚悟はしていましたが、大変です。特に昨年末に子どもが生まれてからは、仕事と家庭の両方がバタバタになってしまい、クラブのメンバーや、区キャビネットの皆様にご迷惑をかけてばかりです。でも素晴らしい大会になると思います。ぜひご参加ください」

—沼津クラブは、2度目のホストですね。1975年は、夏に熱海国際大会の開催を控えていました。

「父が沼津クラブに在籍していました。私は5歳で、東山荘の区大会や直後の熱海国際大会については記憶がありません。ところが、その前年、下関大会に連れて行ってもらったことは覚えています。寝台列車に乗ったこと、飛行機に乗ったこと、関門海峡大橋を渡ったことだけなのですが」

—お父上は、大村俊之さん(現・三島クラブ)。大村さんは、ワイズ2世なのですね。大村さんが、幼少だった頃、沼津クラブは、自分たちでキャンプ場を造っていました。思い出がありますか。

「函南町の『田代のキャンプ場』のことだと思います。タケノコご飯を食べただけは、しっかり覚えています」

—大村家は、伊豆国一宮、三嶋大社とかかわりがあるとか。

「三嶋大社の宮司は、記録のある平安時代以降、矢田部という家がお務めになっているのですが、

私のご先祖様も平安時代以来、矢田部家にお仕えしてきました。明治維新後の廃仏毀釈で三嶋大社がリストラするまでは、家業は神社の神官だったということです。今でも三嶋大社とは深いご縁が続いています」

—母上知子さんは大学教授。大村さんが中学3年の時、「中学までは義務教育だけ高校は違う。行きたいならお父さんをお願いしなさい」と言われたそうですね。

「筒抜けですね。言われるがままに『高校に』行かせて下さいとお願いしたような気がします」

—寄り道をしないで、今の仕事に。

「当時は、とにかく家から離れたくて、金沢大学に進みました。金沢は本当に素晴らしく良い街でそこで危うく留年しそうになるほど存分に遊びました。現在の信金中央金庫の内定を貰ってから、あわてて単位を掻き集め、ソツなく卒業しました。22歳から37歳まで15年、そこで働き、現在の職場に入りました」

—今は、どのような仕事をされていますか。

「信用金庫で支店長をしております」

—何かスポーツは。

「小学生の頃に競泳、小学生から中学生にかけては剣道をしました。水泳は今でも好きですね」

—大村家を知る人は、貴之さんは、おじいさん似だと言いますが。

「父と違って温和さに欠けるのではないかと。声が大きいのと『せっかち』なところは、祖父に似ているといえれば似ているかも」

—座右の銘みたいなものは。

「しいていえば『楽即能久(楽しければ長続きする)』です。細くても長く、自分でやると決めたことを連綿と継続していけるよう、ありがたいものです」

—ワイズには、どうして。

「父は、子ども達にああしろ、こうしろと言う性格ではないのですが、20代の頃、遠回しに在

京クラブにでも入ったらどうだ、と言われたことはあります。私はYMCAには馴染みのない子だったので、ワイズに入るとすれば故郷に帰った後かな、と考えていました。直接には、沼津クラブの稲田精治さんにお誘いいただいたことが大きかったです。沼津クラブには、子供の頃遊んでもらったおじさん達が何人かいらっしゃいました。入会の3年ほど前、祖父の葬儀で、当時ご存命だった青木栄美さんとお会いし、『いつか戻ってきたら、ワイズにおいて』とお声掛けいただきました。それが、生前お会いする最後でしたが、私にとって重みのある邂逅になったように感じています。今にしてみれば、自分の中では、ワイズというより先に、沼津クラブがあったのかな、と思います」

—今、ワイズの良さをどう感じられていますか。

「『やってみたいと思ったことに、成算もなくチャレンジできそう』なところが魅力ではないでしょうか。寛容で緩く活動できるノビしろがあるところでしょうか」

—若い人をワイズに迎えるには。

「私は、YMCAやキリスト教的な思想とは少し距離のある、どちらかと言えば保守的な価値観を持っていますが、自分と異なる価値観・文化、また多様性に対する寛容さを、ワイズを通じて学んでいきたいと考えています。『若い人』の在り様も本当に多様です。ワイズやYMCAが日頃接している若い人の幅は、若干狭いように感じています。社会的な問題(場合によっては宗教・政治も含む)に関して一定水準のリテラシーを持つ『多様な』人々に、もう少し上手くアクセスする必要があります。既往のYMCAとの連携に留まらず、各地域の自治体やNPO諸団体との交流・協働を積極的に展開することが、近道だと考えています」

—ありがとうございました。

ブリテン『Star in The West』500号

ブリテン『Star in The West』が今月で500号となりました。ブリテンはクラブの歴史そのものを刻んでいます。掲載したコラムを中心に、自己流で振り返ってみました。(吉田明弘)

東京西クラブの誕生

東京西クラブは、1976年に誕生しました。会員27人。内7人が他クラブからの移籍でした。会長経験者が6人いましたが、新クラブの役割は、会長の堀内浩二さんはじめ、フレッシュなメンバーで固めました。ブリテンエディター(BE)は小山八州夫さん(多喜子さんのパートナー)でした。

プログラム冊子が創刊号に

私は、チャーターナイトのプログラム冊子の制作を担当させてもらいました。ありきたりのプログラム冊子では面白くないのでブリテン創刊号を『国際加盟記念号』としてチャーターナイト当日に発行しました。

創刊号の内容

創刊号の内容は、当日の式次第、祝辞、決意表明、設立経緯、会員紹介に加えて、トップ記事の「本日、東京西クラブ、チャーターナイト」はじめニュースを入れこみ、「東京西クラブの新戦力を探る」などの読物もありました。

今につながるもの

創刊号には、今日につながるものがありました。①クラブのマーク、②ブリテンの題字『Star in The West』、③3段組みの紙面、です。

最初に制作されたたクラブバナーのマークは、杉並のシンボル、杉並木を緑の鋸屋根状に表現していました。でもレターヘッドにはどうしても収まらないのです。急遽新しいマークを創りました。

その後、マークはクラブバナーにも採用されました。

『Star in The West』

「クラブのブリテンには、特色ある名をつけると良い」と、その年度の国際会長、鈴木謙介さんから助言があり、協議して、『Star in The West』に決めました。

これは、聖書のイエスキリスト誕生物語に東方の賢人たちが星に導かれて旅をしたとあることに由来しました。ブリテンも西方のワイズメンの行く手を示す星でありたいとの思いからでした。

3段組みの誌面

ワイズメンの文章は、どうしても、形容詞が多くなりがちです。スピード感のあるブリテンにしたい。それには、1行の字数を少なくして形容詞を追い出すことだと、1頁を3段組みにしました。おかげでレイアウトに変化が付けられるようになりました。

自画自賛の創刊号ではありませんが、苦い記憶もあります。創刊号は、東京目黒クラブの印刷業の野畑幸平さんにお任せするはずでしたが急逝。校正も十分しないで印刷するハメになりました。今、見ても冷や汗が出ます。

ニュース性とストーリー性

ブリテンには、新鮮なニュースが大切です。同時に、読むのが楽しみになる“読み物”も欠かせません。『Star in the West』は、連載コラムを大事にしました。

「東京西株式市況」

最初の連載コラムは「東京西株式市況」でした。親クラブの1つである東京目黒クラブで連載したものを引き継いだ形でした。

メンバー1人ひとりを株式銘柄に見立てて、1か月の間の個人情報によって、株価が上下するので

す。「*荒善吉さん：BFの切手提出第1号。切手収集の㊟ノウハウを開発しポイントを稼いでいる。含み資産を買われて3円高」とか。第2号から始まり、81年10月で中断、86年8月に復活し、97年2月号まで続けました。

「うまい店 いける味」

食通の安藤洋子さんが、4号に「おすすめのビーフシチュー店を紹介しました。このコラムに「うまい店 いける味」と名がついて連載が始まり、84年6月号まで続き、話題を呼びました。安藤さんの転会のため、これも食道楽、佐藤幸楽さんが1年間、「ちょっとよりみち」を連載しました。食べ歩き連載執筆には苦しいこともあります。安藤さんは、1年間で、ジーンズのサイズが何度も変わったそうです。

「Hello !! ムーミン」

クラブ創立から1年ほど経て、メンバーのワイズやYMCAの理解を深めるために解説のコラムを設けようということになりました。私は、当たり前の解説では読まれない、メンバーが編集長に質問を出し、編集長がその人に答える形式にしようと提案しました。担当した石井一也さんが書いた原稿を見て驚きました。タイトルは、「ハロー・ムーミン」。ムーミンは、BEの小山八州夫さんのキャンプネームです。読者の質問にムーミン谷に住むムーミンが心を込めた手紙で答えるのです。内容も入会1年の石井さんが、どうして書けるのかと思うほどこなれていました。72年まで連載されました。ワイズ文献史上に残る傑作だと思っています。

「こーちゃんのウエルネス」

83年から2015年まで「こーちゃんのWellness」が連載されま

した。執筆は、「デンマーク体操のこーちゃん」として全国ブランドで、ウェルネスの推進者だった堀内浩二さん。毎号、BE にきちっとした原稿が真っ先に届きました。健やかな生活をテーマに分かりやすく書かれて、多くの愛読者がいました。84 年頃からは、「東京西株式市況」とともにバックページに掲載され、「東京西のブリテンは後ろから読まれる」といわれました。

続々生まれた「読み物」

1982 年には「さわやか訪問」というメンバーの家庭訪問のコラムが設けられ、89 年度には「The Star of Smile - Network」コーナーが設けられ、会員の家族紹介などを行いました。

80 年 6 月号から 84 年 6 月号まで奈良昂さんが DBC 向けに英文のページを担当し、92 年 1 月号から 02 年 6 月号まで、石井一也さんと中田恵梨花さんが英文のコーナーを設けました。

98 年、杉並 YMCA がスタッフも会館もなくなるという状況になり、8 月号から 99 年 10 月までセンター運営委員長が「杉並 YMCA-Now」を書きました。

97 年には、『日本ワイズメン運動 70 年史』が発行され、そこに記されなかった余滴ともいべきエピソードが「日本ワイズダム 70 年意外史」として 97 年 7 月号から、98 年 6 月号まで連載されました。

「ひとことマンスリー&ワイズリー」

ワイズメンやワイズメネットの発言には、思いがけない含蓄のあるもの、楽しいものがあります。02 年 8 月号から、そんな一言を集めた「ひとことワイズリー&マンスリー」が始まりました。「株式市況」が話題をクラブ内に限ったため、マンネリ化したこともあり、今度は全国を対象を広げて、12 年 6 月まで続けました。

PCで編集、印刷は自分たちで

02 年度から、印刷を外注しないで、パソコンで入力し、リソグラフ印刷に切り替えました。制作費が 100 分の 1 になりました。

それまで、BE が編集から印刷、発送までを担当していましたが、05 年から編集を 4 人が月替わりで担当し、篠原文恵さんが版下作成し、大野貞次さんが印刷、高嶋美知子さんが発送（その後、山田紀子さん、本川悦子さん）を担当する分業制に変えました。

05 年度は、混同しやすい用語、「標語と主題」「国際大会と世界大会」「君とさん」などの解説コラムを設けました。

メンバーには、02 年 9 月号から 04 年 7 月号まで「ワイズメンの週間日記」として一週間の行動の披露を、09 年 12 月号から 11 年 6 月号まで「イチオシお食事処」の紹介をしてもらいました。

次々に執筆者が広がる

2012 年に「ひとこと」をやめました、その半頁の跡地にメンバーの随想が生まれました。

それでも 20 人を切ったクラブには 6 ページ立てのブリテンは無理だ、4 頁にしよう」という声が出ました。インターネット配信が主流になった今、3 段組みの誌面は読みやすいとは言えません。変革の検討も必要でした。しかし 6 頁を 4 頁にするには誌面の根本的な変更が必要でした。意欲的な企画を含めると 5 頁は欲しい。1 頁分は、新企画の「インタビュー」で受け持つことにして、とりあえず 6 頁を継続しました。

15 年 12 月、体調を崩されていた堀内さんの連載が終了。この半頁分を、重なる大手術から生還し静養中の木原洗さんが闘病記「埋もれ木の記」の連載を申し出てくれました。この題には「かならず再起するぞ」という強い意志がありました。しかし再び発症、5 回の連載で絶筆。

このスペースに今回は 90 歳の竹内隆さんが「誰にでもなれる百歳長寿を目指すー平成養生訓」を 10 カ月連載し、その後も「アンチエイジングーロメモ」に健筆を振るっています。

また、5 児の母、村野絢子さんが、繁さんとの思い切った育児ぶり、「シゲとあーやの子育て」を執筆中です。

歴代ブリテンエディター

1976 年度	小山八州夫
1977 年度	小山八州夫
1978 年度	西原幸一郎
1979 年度	吉田 明弘
1980 年度	吉田 明弘
1981 年度	佐藤 幸楽
1982 年度	佐藤 幸楽
1983 年度	石井 一也
1984 年度	佐藤 幸楽
1985 年度	佐藤 幸楽
1986 年度	吉田 明弘
1987 年度	吉田 明弘
1988 年度	山田利三郎
1989 年度	山田利三郎
1990 年度	石井 一也
1991 年度	神谷 幸男
1992 年度	神谷 幸男
1993 年度	吉田 明弘
1994 年度	吉田 明弘
1995 年度	神谷 幸男
1996 年度	神谷幸男・石井一也
1997 年度	石井 一也
1998 年度	中田恵里花
1999 年度	石井 一也
2000 年度	神谷 幸男
2001 年度	吉田 明弘
2002 年度	吉田 明弘
2003 年度	吉田 明弘
2004 年度	吉田 明弘
2005~2012 年度	企画：池谷、大野、神谷、吉田が毎月交代で務め、会長になった年度は残る 3 人で担当した。入力・レイアウトは篠原文恵
2013 年度~2017 年度	企画から池谷が抜け、3 人となった。入力・レイアウトは篠原文恵が 2004 年から継続。

10) 鶏がらスープの効用

2015年の世界の平均余命が発表されて、男女とも香港が第1位となり、長く第1位の日本女性は第2位になった。日本男性は第3位から4位に後退した。しかし日本も男女とも前年よりは少しく延長している。

日本の旅行会社の添乗員から香港に移り住み、香港人と結婚し中医学の大学教授になった「楊さ

ちこ」著「世界一の養生ごはんーそれは1日1杯のスープのおかげ！」(小学館発行)の中に香港人の健康長寿の理由が明らかにされている。

何処の家でも暖かい手製の「チキンスープ」150ccを飲むことから毎日が始まる。この手製の鶏がらスープこそ香港人の「お母さんの味」で、このチキンパワーこそ香港人の長寿の源だった。

私も、中医学の「一物全体」(有効成分だけを抽出したサプリ等ではなく食べ物としてそのまま)の理論に納得して長年愛用したサプリの内、ナチュバイタル(マルチビタミンミネラル)を中止して毎朝1杯の市販の味の素社の「丸鶏がらスープ」に変えた。調子が良い。香港人にあやかりたい。

シゲとあーやの子育て⑨
村野絢子

次女Aはチャコットでバレエ衣装を作る仕事の後、自分で決めた相手と結婚し、家庭を持ち2人の母でありながら、家のパソコンでデザインし、親しい職人さんと衣装づくりをしている。

だが、彼女の自己中心の正論は、夫と、隣に住む義母には通じず悩み続けた。彼女の強い口調に負けた相手は暴力を振るうようになり、話し合いの出来ぬまま、子どもと3人でアパートに移り、1年後離婚が成立した。

上の孫は小学生の時から毎年、東山荘の富士登山に参加し、高校生になった昨年はリーダーとして活躍した。空気の良くない家庭でよく乗り越えてくれたと愛おしい。弟の中学生の孫は卓球部で頑張っているが難しい時期をなんとか乗り越えて欲しいと祈っている。

社会の中で自分の育った家と同じ考え方の家は少ないこと、子どもに高級なものを頂いたら、喜んで頂戴することを教えなかった自分、もう少し賢く家庭生活ができると思っていた自分、結婚を本人任せで、干渉しなかった自分

の甘さを思い知らされた。Aとその相手、ご家族には本当に申し訳なく思っている。

3女のNも同じ悩みを抱いたと思うが、自分は劣っていると控え目なのと、我慢強い性格で夫を立てて静かに暮らしている。今春大学院に進学が決まっている次男はアルバイトで学費を貯め、返済なしの奨学金を受け、父親の了解をやっと取り付けた。大学までは予定したが、大学院は想定外だったようだ。長男は社会人、3男は高校生、クラリネットに夢中だという。

YMCA Today

◇「下町こどもダイニング」が東陽町センターにてお試し版が1月29日に開催され、定員を上回る申込があり、小学生24人と保護者4人の参加がありました。一緒にゲームや歌を楽しんだ後、準備にあたったボランティアも交えて食事の時間を持ちました。1人で食事をしなければならない、また保護者がいても弟や妹の世話などに忙しく孤独を感じながら食事をしている子どもたちなどに向けた「下町こどもダイニング」を4月からは毎月東陽町コミュニティセンターで開催いたします。

◇神田川、日本橋川、隅田川周辺

を船でめぐるクルーズです。77回目の今回は「歴史を再発見し現代を再確認できる」コースとして、神田川・日本橋川に加え、隅田川下流・東京港・晴海運河、中央卸売市場移転計画地や東京オリンピック&パラリンピック選手村建設予定地などを周遊するクルーズです。5月12日(土)参加費3,500円。詳しくは東京YMCAのホームページでご確認下さい。

◇昨年12月末で閉館した東陽町ウエルネスセンターが、4月に再オープンしました。「ウエルネス東陽町」と名称を改め、テニスクールと子どもの水泳を実施します。また東陽町センターも「東

陽町コミュニティーセンター」として地域活動を展開していきます。(担当主事・宮崎 純)

編集後記

ブリテンがいつの間にか500号になっていました。クラブ内でも話題になっていなかったのが慌てました。400号の時には、5人のベテラン編集者に寄稿をお願いしました。今回はあまりに急で、頼めない。困ったときにいつも甘えてしまう横浜とつかクラブの加藤利榮さんをお願いし、快く書いていただきました。クラブのBEを何年もされています。ありがとうございます。(AY)